

奄美・琉球列島の珊瑚礁

八久 滝

私が初めて奄美、沖之永良部島へ行つた時の事を母親に話した事がある。「珊瑚礁が張り出し、海の中は色とりどりのサンゴがあり、その間を美しい魚が群れ遊んでいて何とも口では言いきれないよ」と、すると母は「そんなにきれいなサンゴがあるならなぜ取つて来なかつたの？大きなりユツサクをかついで行きながら



部分は珊瑚生息域

六方サンゴ亜綱石サンゴ科と呼ばれ珊瑚礁はそれが何百mも時には何kmも沖まで一面に広がっているのである。

腔腸動物門 — 花虫綱

- ／ 六方サンゴ亜綱 — 石サンゴ科
- ＼ 八方サンゴ亜綱

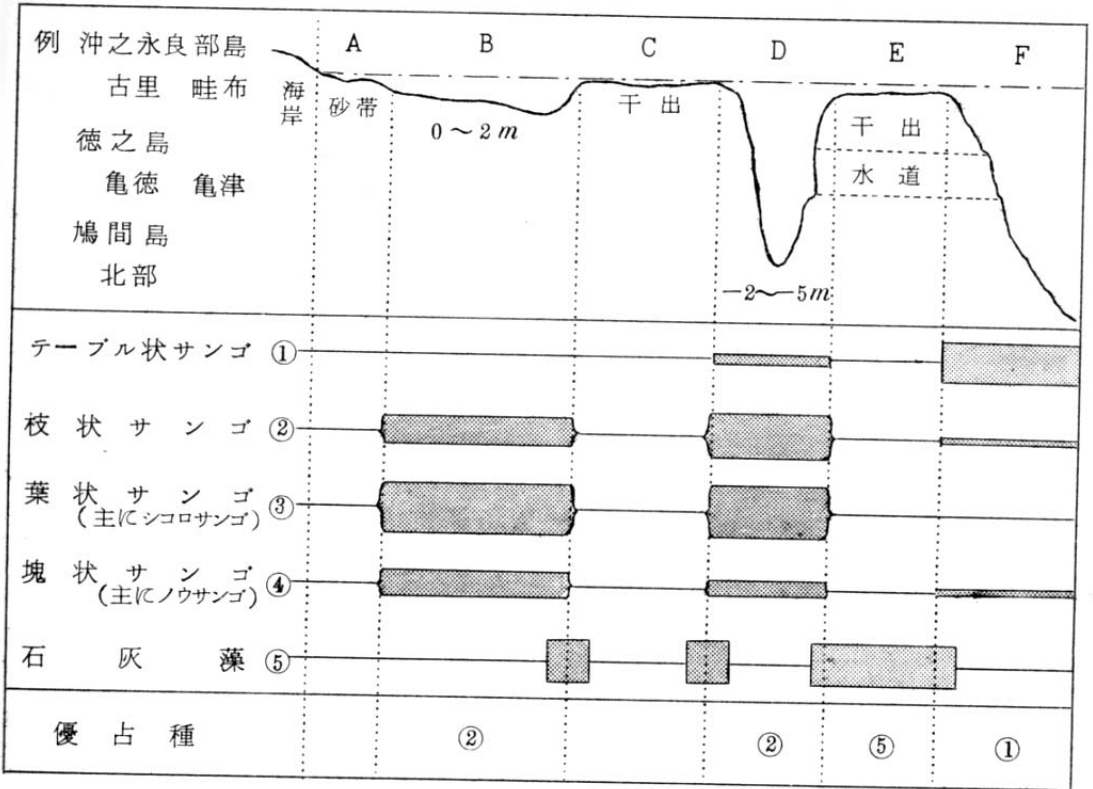
☆サンゴ礁作りと環境

通常我々が見るサンゴは群体であり、サンゴ虫と言うイソギンチャクに似た小さいものが(直径1cm以下)アパート住いをしている。そして彼等の作ったアパートが、我々の目に形として映る。彼等がアパートを作るスピードは地域によつて違つてくる。その違いの要因として私は次のものをあげる。①海水温、これは18℃から35℃の間に限られ、高すぎても低すぎても生存不可能となる。ただ一時的にこの範囲をこえることはあり得る。②潮流及び波浪 — これは彼等の作るアパートが脆いとすぐに破壊されてしまう。また雨などにより塩分が薄められたり、泥により海水が汚されたりすると生存できない。③酸素及び食物、サ

少しでも持つて帰つて来たら指輪でも作れたのに。」この時私は笑つていいものかどうか、ためらつた。世間一般の大人の中にあるサンゴの概念は宝石の指輪であり、ネックレスである。

しかし我々の心を捕えるサンゴは漂白してせいぜい飾り物にする石の様なサンゴであり、人々の概念にある様なサンゴではない。

図 1



ンゴは肉食性であるゆえ動物プランクトンが必要であるので海水の循環のよい所によく発達する。

以上の事を集計すると潮流のある、大きなタイドプールが最適となる。しかし彼等の中には環境に適応して、強いアパートを作り、潮流や波浪の激しい所で生活する者もいる。

☆アパートの形と装飾

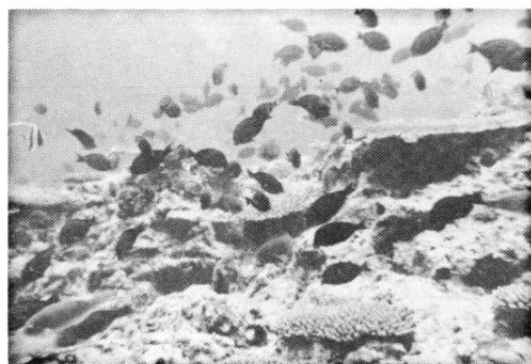
以上の様に彼等は環境に適応し、又他のグループに負けなように独特の形体を見せる。それを分類するとテーブル状、枝状、葉状、塊状と4つに分けることができるが、1つとして同じ形をしているものは全くないと言えるだろう。また彼等の放つ色(自分のアパートの中にズークサンテラと言われる共生藻を持っているので色を放つ)も赤、青、黄、白、茶、緑と全く我々潜水者の目を

楽しませてくれる。もし彼等が陸上の都市建築をやってくれたらどんなに美しい町が出来上るだろう。

☆礁

では、珊瑚礁において彼等はどのように生存しこの珊瑚礁を掘けていつているのだろうか？私はニューヘブリデス諸島において、C・S エルトンが調査したのと同じ方法で行ってみた。その結果が次の表(図1)である。

- ①テーブル状サンゴは通常材質がかたく、潮流、波浪に強く、礁を形成する材料としてかなりの比重を占めるが、成長は遅い。
- ②枝状サンゴは脆く、死んでしまうと砂礫と化してしまうが、生長が早く低湖線ぎりぎりまで発達する。リーフ外では深所でたまに見かけられる程



E区の下を通り、時にはB区近くまで続いている事もあり、この水道を通路としてバロットフイツシユ、ニザダイ、タマミ、クチビそれに回遊魚までもが入り込んで来る。

度である。

③葉状サンゴ、主にシコロサンゴを指して言う。他にはスリバチサンゴ類、カワラサンゴ類がある。

ここではシコロサンゴを取らせてもらった。このサンゴは成長が早く、発生すると、タイドプールに水があるかないかの所まで成長し、鳩間島北部においては、千出地とリーフ外を除いてすべてシコロサンゴが支配していた。しかし、何か適性因子があるらしく、見当らない所には全くと言っていいくらいに生存しない。

④塊状サンゴ、このサンゴは礁を形成する主役であるように思われる。硬いし、大きくなる。しかし完全に優位を占めることはなく、各々の個体のみが大きくなつていく。

この様な事を考え合わせ、優占種を決定する。

☆生物層

これに加えて各帯の生物(サンゴ以外)を見るとA区のギンポ類、F区のニザダイ、バロットフイツシユは完全優性を示す。特にA区においては、水温は夏 35°C ~ 40°C 以上にもなり高水温に強いギンポの仲間しか生息出来ない。B区は所々でD区とつながり、スズメダイの仲間に優位を占められている。しかしスズメダイはB区の水深があり、A区ほど水温の変化のない所のみ生息する。D区、F区間には多数の水道(洞窟)が見られ、

☆石灰藻

ここで説明しておかなければならないものに石灰藻がある。石灰藻は名の通りカルシウムが多く普通の海藻の様に大きくは生長せず、礁にへばりついている。我々が素足で上を歩くとチクチクする。彼等の領地は⑤の様にサンゴの領地とは殆んどかみ合わず、

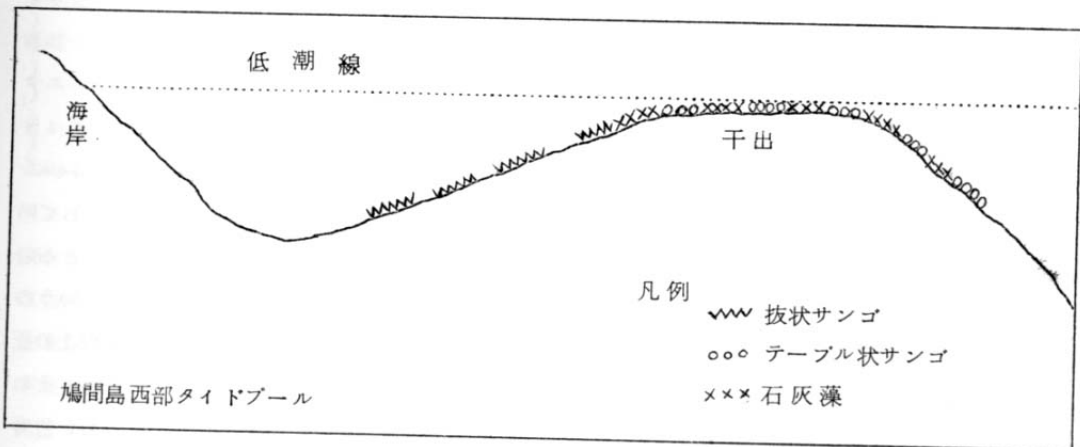
- 深所では見られない
 - 干出所であり常出所ではない
 - 完全な砂帯では見られない
- ということが出来る。

☆ケスタ(図2)

フランス盆地が特に有名である。図の様な地形が石灰藻とテーブル状サンゴ、それに枝状サンゴによつて作られている場合がある。なぜこの様に顕著に表われるかは今後の課題であるが、ここでは現状だけを捉える事にする。図の様な場所では枝状サンゴは砂帯とストライプをなし枝状サンゴ帯は高さ2~3mにも達する。またテーブル状サンゴと石灰藻もストライプをなすが枝状サンゴの様な高さを持たず、礁の表面に付着している。

☆海と我々

この様な珊瑚礁を砦として生活をしている生物、彼等が苦しい合宿から我々の心を慰めてくれる。我々が潜つた海での透明度は30m以上を記録し、魚類は色彩豊かなものが多い。一度潜りに出ると、枝サンゴに群がるスズメダイ、イソギンチャクに抱かれ恐る恐る我々を眺めているクマノミ、夢心



にサンゴをかじり我々に気付くと、驚いてバクダン(糞)を落して逃げるパロットフィッシュ、優美な姿を見て下さいと言わんばかりにサンゴ礁を舞台に舞うチヨウチヨウウオ、俺は帝王だ。来るなら来いと歯をむき出しニツと笑い勇々としている2mものハタ、俺のヒゲこそ世界一と存分に動かして餌をあさるオジサンやヒメジ、私は海のノミ取り屋、頼まれなくても取つてあげますよと我が足を突つつくホンソメワケベラ等々……。

この様な海の友人(友魚)達と会い彼等の生活の中に入つて行く。我々は長い活動を終え、海を堪能して帰るが、2~3日もするともう海が恋し

くなる。ある者は頭の皿が乾いたといい、ある者は活動を行つた海を思い浮べ1日中夢を見ているようになり、何を言つても返事すらしめない。なぜ海が恋いしくなるのだろうか。人が長旅に出てホームシックになるようなものだろう。自分がまるで永住して来た所の様に勝手知つたる海の中の中でも言うのであろうか。

海に入ると全ての物が仲間になる。あの外見が醜く、気持悪がられるウツボやウミヘビも、またある部員を溺れかけさせた巨大なタコも。

(経済学部4回生)

